



Title	忍頂寺文庫・小野文庫の研究 : 二〇〇九年度
Author(s)	飯倉, 洋一
Citation	忍頂寺文庫・小野文庫の研究4. 2010, p. 7-10
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/47712">https://hdl.handle.net/11094/47712</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 忍頂寺文庫・小野文庫の研究

―二〇〇九年度―

飯倉洋一

大阪大学大学院文学研究科共同研究（国文学研究資料館研究連携事業「忍頂寺文庫・小野文庫の研究」）の研究成果報告書を刊行する。

昨年度まで、本事業は、大阪大学文学研究科共同研究の公募に応募し、採用される形で予算を獲得してきたが、本年度からは、研究科長裁量経費のひとつとして公募以外の枠で認められることになった（本年度は四〇万円）。本研究連携は二〇一〇年度までであり、最終的なまとめを見据えた形で進めている。以下簡単に本年度の研究状況を記しておきたい。

本年度の研究目的には、

- 1 忍頂寺文庫の目録のデータ採取を含む文庫所蔵文献の書誌学的・文献学的研究
  - 2 忍頂寺務宛書簡の研究
  - 3 忍頂寺文庫所蔵の文献の蔵書印の研究
  - 4 忍頂寺文庫目録の完成
  - 5 洒落本テキストデータベースの点検と公開
  - 6 二〇〇五年度以来の本共同研究報告書のPDF化とホームページ公開
- を掲げ、ほぼ順調に進めることができた。

本研究の打ち合わせは七月十一日に開催した。4については、データ採取に基づき、チェック作業を進める過程で、未採取の資料が発見されたため、完成が遅れている。しかし、忍頂寺文庫目録の刊行については、大阪大学附属図書館のご協力を得ることが可能となり、来年度中に刊行される。目録のデータによる提供は、図書館とも相談するが、目録刊行後となるだろう。

二〇〇八年度からスタートしている国文学研究資料館公募研究「近世風俗文化の形成―忍頂寺務草稿および旧蔵書とその周辺―」（代表者 飯倉洋一）という共同研究は、本研究と密接な関係を保ちつつ進めている。前回の報告書には記せなかったが、二〇〇九年三月六日には、公募研究との共催で、肥田皓三先生の「忍頂寺務の著作を集める」という講演会を開催した（大阪大学総合芸術博物館セミナー室）。これがきっかけとなって、肥田先生のご蔵書である忍頂寺務著の『潮来舟』および、務自身が刊行した雑誌『延寿清話』など務が関わった雑誌を大阪大学にご寄贈いただくことになった。いずれも稀覯書であり、心より謝意を表する次第である。

以下、二〇〇九年度の研究実績および進捗状況について述べたい。

目録調査は、飯倉洋一と、浜田泰彦氏をはじめとする大学院生が、未採取の音曲関係書を調査し、書誌データを採取した。データを刊行時にどのような書式にするかも決定した。データのチェックが思うように捗っていないが、来年度早々には終えたいと考えている。この調査の成果の一端として、五月一日・二日、大阪大学いちよう祭展示会（於大阪大学附属図書館）に、報告書3で紹介した忍頂寺文庫所蔵薄物唄本「尽くし物」十四点と、関連する忍頂寺務の草稿二点を展示した。草稿の方は報告書での紹介がなかったので、この場を借りて転載しておく。

『近代歌謡考説草稿』（小野文庫 387・388）387は百二十五枚の原稿、388は七十八枚の原稿、忍頂寺務自筆。出版されるはずであった『近代歌謡考説』の草稿としてまとまっていたものが、一部貸し出された後、二つに分かれて保管されていたもの。全部で二十編あり、「多びや節について」「大阪に於ける兵庫口説について」ほか十三編が387、「兵庫口説奈録」「都々一節」ほか七編が388に収められる。務は自らの蔵書を用いて、これらの論文を雑誌に発表、それを昭和二十二年ごろに中村幸彦の仲介で出版しようとしたが、その企画は版元の事情で中絶した。天理大学附属天理図書館には、第一次の草稿が所蔵される。これに中村幸彦が依頼した追加稿を合わせたのが、展示している『近代歌謡考説』（第一次草稿）である。三田村鳶魚の序文が付されている。

はやり音頭兵庫ぶし(小野文庫373) 半紙本写本一冊。袋綴じ。忍頂寺務自筆。兵庫ぶしの目録および詞章を集成したもの。二四字×二〇行の茶罫原稿用紙にペ  
ン書。初丁は表紙で「兵庫ぶし目録」(昭和六年七月調査)と添書あり)として、四十一曲を掲げる。目録の所蔵者項目により、太田文庫、禾舟文庫・静村文庫・  
山村文庫の調査内容と知られる。「石とう丸なみたの花かこ」「おいそ庄兵衛」など所収。

「兵庫くどき」(小野文庫374) 半紙本写本一冊。袋綴じ。忍頂寺務自筆。兵庫ぶしの詞章と目録。一四字×二〇字の緑野原稿用紙(中央下に「忍頂寺務」と印刷  
される)に墨書。墨付三十六丁半。「愛護種名歌勝鬨 ひゃうくどきはやりおんど 枕づくし」「阿波の十郎兵衛 新はんはやりおんどくまのふし」などの詞章写  
し。各曲末に務の註記がある。巻末の「兵庫くどき目録」は「山村太郎氏作成のものに些か補遺したる」という。務による分類と目録掲載数を示せば、「節の名  
を記さぬもの」三十三曲、「熊野節」六十七曲、「甚九節」十六曲、「早口うたせ」十八曲、「兵庫節」三十二曲。

また、調査の成果の一端として、本報告書に、一荷堂半水の俗謡本の紹介を掲載した。これらは二〇一〇年のいちよう祭で展示予定であ  
る。

内田宗一氏には何度も阪大に足を運んでいただき、忍頂寺務宛書簡リスト作成のための基礎調査がほぼ終了している。本予算から出張費  
を出せず、学会等に合わせて日程を組んでいただくなどのご苦労をしていただいている。その熱意に感謝申し上げます。

青田寿美氏の蔵書印調査も忍頂寺文庫の分は終了、小野文庫も終わりに近づいている。

正木ゆみ・川端咲子両氏による忍頂寺文庫所蔵の『仮手本忠臣蔵』の注釈は、本書にその前半を掲載することができた。

洒落本データベースについては、ウェブサイト (<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~ikura/Ninjo/Ono/syarebon.html>) で現在五作品の翻字  
字データ、解釈データ・画像データ(大阪大学総合芸術博物館統合資料データベースの「忍頂寺文庫洒落本」にリンク)公開をしているが、  
今年度中に十二作品に拡大する予定である。

共同研究のウェブサイト (<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~ikura/Ninjo/Ono/index.html>) には、現在『忍頂寺文庫・小野文庫の研究』  
第一号・第二号(PDF文書)、『小野文庫目録』・洒落本テキスト・データベースなどが公開されている。

なお前掲の国文学研究資料館公募研究「近世風俗文化の形成―忍頂寺務草稿および旧蔵書とその周辺―」でも、重要な進展があった。

二〇〇九年三月八日の淡路島における引接寺・忍頂寺家墓所・淡路文化史料館での調査を契機として、九月六日の研究会では、忍頂寺務嫡

男で実孫の忍頂寺晃嗣氏（仙台市在住）をお招きし、聞き取り調査を行い、忍頂寺家の家系や忍頂寺務の出目が明確になった。その席上で、御自宅に保管される資料若干を持参されたが、務の俳号や俳歴が明らかになるなど、重要な事実が多く明らかになった。国文学研究資料館では晃嗣氏のご許可を得て、これらの資料を撮影・調査し、十二月二十六日に「自宅までお返しに伺った。この時、他にも資料があるというので見せていただいたところ、忍頂寺家の系図、忍頂寺家代々の事蹟（務筆）、務草稿など、きわめて重要な資料が次々に出現し、共同研究の延長も考えなければならぬ事態となっている。

なお研究会も公募研究と連動する形で行っている。九月五日（於国文学研究資料館）の研究会では、尾崎千佳氏が「忍頂寺務と高田蝶衣」、青田寿美氏が「鳶魚と忍頂寺務―西鶴輪講・江戸語彙をめぐる問題系―」を発表した。青田氏の発表は本報告書に掲載される。三月十三日（於大阪大学）に予定されている研究会では、福田安典氏・浜田泰彦氏がそれぞれ発表する。その他の共同研究員も、着々と調査研究を進めているところである。

最後に、本共同研究の研究員ではないが、本学の日本文学・国語学の院生諸氏に多大のご協力をいただいた。深謝申し上げます。

（二〇一〇年三月一日記）